



協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.89



12月

発行 / 公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2012年12月 1日

平成24年協会活動報告

常務理事 立石博巳

昨年3月に東日本大震災が起き、1年8ヶ月経った現在、政治経済の低迷、復興予算の執行の不備等により復興は緒についたばかりです。被災地被災者の方々には心より重ねてお見舞い申し上げます。私共協会も昨年11月に遠野市に於いて復興シンポジウムを行い、本年も復興支援委員会有志が4月の2日間（情報誌「観光施設」300号掲載）に引続き会長以下5名で8月1日から3日まで宮古市、田老町他を訪ね現地で行政の方や地元の方々と懇談会を行い、さまざまな問題につき熱く語り合いました。この調査報告書は1月号に掲載されます。どうぞご熟読の程よろしくお願い致します。

本年度総会は6月15日に椿山荘で開催され、ご来賓の観光庁志村次長様を始め、約170名の方々が出席されたいへんな盛況でした。議題はすべて承認され新公益法人として名実共にスタートいたしました。

7月10日山方副会長の肝入りによる椿山荘ガラディナー（東北災害支援パーティ）に会長以下55名が参加し、当協会は災害支援の御寄付を頂戴いたしました。

広報委員会の情報誌「観光施設」は黎明298号から紅葉301号まで4回発行され、銀河300号では記念特集を組み、歴代広報委員長をお招きし、永い間の歴史や変遷について語り合いました。

会員増強委員会においては、会員増強はもとより経

済情勢がきびしくなる中、現会員の退会対策の強化と新会員を含めた会員全体に対するサービスを検討し、新公益法人として市民への呼びかけにも注力いたします。10月末現在の正会員202名社、賛助会員41名社、合計243名社です。

各委員会、分科会、交流部会（建築・設備・インテリア部会）においてセミナー、講演会、見学会を催し、会員相互の交流親睦を深めて市民の方々へのアピールを行いました。

ホテルズ実行委員会は第41回2013国際ホテル・レストランショー - に向けて別掲のようにユニークな企画を立て実施する予定です。皆様の積極的なご参加をよろしくお願い申し上げます。

政治経済も総選挙を控え国内外、特に中国韓国との問題の他に米国、新興国を含め課題が山積みし、会員各社の皆様には大変なご苦勞をされておられる事と拝察申し上げます。

総務委員会は協会活動の中核として下期予定している各行事をスムーズに運営し、新公益法人としての定着化に対応いたします。また、会員相互の親睦と情報交流が活発にはかれ少しでもビジネスチャンスが生かされるよう、目くばり気くばり心くばりを持って努力いたします。会員始め関係各位のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

第41回 2013 国際ホテル・レストラン・ショーのお知らせ

第41回 2013国際ホテル・レストラン・ショーは、平成25年2月19日(火)～22日(金)に、例年通り東京ビッグサイトにおいて開催されます。

今回4回目を迎える、当協会の特別企画「エコ達人村の相談デスク」は、達人の専門分野が拡大し、ますます充実した内容で、旅館・ホテルのエコ・省エネ相談（予約制）にお応えします。

また会場ブースには、協会の公益活動の一環として、東日本大震災創造的復興支援、観光地活性化支援、避難絵図などをパネル展示でご紹介します。

最終日に行なわれる主催者セミナーでは、協会の推進する「エコ・小」運動の第一段階、無駄をなくす計測を取り上げ、『ローテクの見える化「計測」で、激減できる水光熱費』を開催します。

是非、皆様のご来場をお待ちしております。

★☆☆ HCJ2013

HOTERES JAPAN

41回 国際ホテル・レストラン・ショー

34回 フード・ケータリングショー

13回 厨房設備機器展

ホキ美術館(HOKI Museum)見学会報告

10月15日

インテリア部会は10月15日にホキ美術館の見学会を催しました。同館は「2011年日本建築大賞」、「千葉県都市文化賞2011」の建築部門と「千葉県都市文化賞優秀賞」を受賞しました。

ホキ美術館は、(株)ホギメディカルの創立者である保木将夫氏が蒐集された写実絵画の殿堂です。館長に案内されて、写実絵画作品のすばらしさを堪能しました。今回の建築設計をご担当された日建設計 山梨チームの鈴木様に詳細な解説を伺いました。

見学会を実現してくださった保木館長はじめホキ美術館の皆様、日建設計や他ご関係の方々に感謝申し上げます。

玉川大学折戸晴雄教授 セミナー報告

11月7日

今年の講演は「LCCから学ぶもの」と題して『ホテル旅館の成長戦略』をキーワードに折戸晴雄様に講演をいただきました。1974年に(株)ジャルパックに入社されその後、海外支社の代表取締役&CEOを努められ今日までのパック旅行の商品開発の歴史を見てこられたお一人です。

欧米でのLCCが成功している企業は、多様化した現代の消費者ニーズに対応し徹底した効率化を図り価格のメリット性を利用者側に提供していることです。LCCの考え方や手法のメリットは、混迷する現在のあらゆるビジネス業界に共通しているのです。ホテルマーケットにおいてもLCC化が進んできます。極端な例ですが、最小限のアイテムとしてベッドと水廻りを使用する料金にさまざまなオプションが加わり料金設定がされます。たとえば、エアコンの使用時間を事前設定することで利用額を調整することも可能です。

観光立国として多くの外国人を迎える日本にとってはこの様なニーズもあることを考えなければならぬ、と興味深いお話を聞くことができました。

ザ ゲートホテル雷門見学会報告

11月19日

従来、浅草は夕方にもなると人が引いていき淋しいものでした。しかし、それを変えたのが東京スカイツリーの開業です。スカイツリーからの素敵な景色や飲食、買い物、宿泊も観光客の楽しみです。

このたび、浅草地区におしゃれなホテルができました。それがザ ゲートホテル雷門です。浅草駅から2分、スカイツリーからでも徒歩15分です。

建築設計は松田平田設計、インテリアデザインと外観デザイン監修は著名な内田繁さんが担当されました。クライアントのヒューリックグループと内田デザイン事務所は新しいホテルをめざし、短期間で下町らしい宿泊客に愛されるホテルを作られました。

開業半年、日経トレンディの調査でも好評価いただいているホテルの見学会を実現してくださった方々に感謝申し上げます。

賀詞交歓会開催のお知らせ

新年を寿ぎ会員相互の交流を深めましょう。

日時：平成25年1月15日(火) 11時~12時30分
場所：ホテルメトロポリタンエドモント3F「千鳥の間」
千代田区飯田橋3-10-8 TEL03-3237-1111(代)
交通：JR・地下鉄「飯田橋駅」より徒歩5分
会費は無料です。開催時間ご注意ください。

事務局 年末年始のお休み

12月29日(土)~1月4日(金)

新入会員紹介 (入会順)

[メカ]トレイン・ジャパン株式会社

(代表者)代表取締役社長 三橋正卓
(担当者)マーケティング部 マーケティングマネージャー 鈴木 眞
〒141-0021 東京都品川区上大崎4-5-37 本多電気ビル5F
TEL03-5435-6439 FAX03-5435-6440
業務内容：各種空調機器、省エネソリューションの販売、保守サービス

[メカ]株式会社サンボール

(代表者)代表取締役 山根以久子
(担当者)営業企画部 販売促進課 課長 脇坂和彦
〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-10
TEL03-3591-8501 FAX03-3591-8561
業務内容：建築、土木、インテリア、製品の企画、生産、販売

[個人]高橋美江 高橋デザイン室

〒114-0014 東京都北区田端5-7-3
TEL03-5834-0357 FAX03-5834-0350
業務内容：グラフィックデザイン、絵地図、イラストレーション、まち歩き、講演

第100回記念ゴルフ大会 報告

協会の記念すべき大会が11月16日にスターツ笠間ゴルフ倶楽部にて開催され、美しい紅葉、穏かな天候、きちんと整備されたコースコンディションのなか、和気藹々に10組で競技が行われました。

激戦を制しての優勝は(株)かいせい秋山様でした。三の丸ホテルへ場所を移し行われたパーティーでは、第100回までの歩みを大木様にお話しをお聞きし、表彰式では駆けつけていただいた中山会長にプレゼンターをお願いし、様々な商品、表彰状・特別賞に笑顔がこぼれました。表彰式の後にマジックショーやサプライズゲストとして三塚優子プロの登場に大いに盛り上がりました。今回、ご参加頂いた方に感謝するとともに、101回から、また新たな歴史を皆様と共にきざんでいきたいと思っております。

♥編集後記♥

早いもので今年もあと僅か12月を残すだけとなりました。今年は協会にとって公益社団法人に生まれ変わる記念すべき年になりました。新たに公益委員会が発足して本格的に公益活動が開始されることになりましたが、これまで実施してきた事業内容が公益的な事業といえるものばかりでしたので、当面の私達の活動には、あまり変化が生じないものと思われれます。しかし、さらに飛躍し発展を遂げるためには新たな事業も必要であり、どの部門が拡大できるのか、また、新規事業として何が創造できるのか、新しい年に向かって全員で協力し知恵を出し合ってまいりたいと思います。

Y.K